7.

学術成果の発信

- 1) 学術雑誌『ジェンダー研究』
- 2) プロジェクト報告書IGS Project Series による成果刊行

1) 学術雑誌『ジェンダー研究』

■『ジェンダー研究』概要

ジェンダー学の先端成果、知の構築



本研究所が発行しているレフェリー付きの学術雑誌。編集長は足立眞理子 IGS 教授(第 11 号より第 19 号現在)。前身は『女性文化資料館報』(1979-1987 年)、『女性文化研究センター年報』(1988-1996 年)。 1998 年 3 月に『年報ジェンダー研究』第 1 号を創刊以後、年刊。

本誌は寄稿論文、投稿論文、研究ノート、書評、ジェンダー研究所の事業報告、彙報などから構成される。投稿資格は本学教職員と現役学生、卒業生、研究所関係者に限定されるが、外部審査を経た投稿論文、書評は非常に高い質を誇っており、巻頭に掲載される世界第一級のジェンダー学研究者による寄稿論文も特筆に値する。

見立旨理 7.

■『ジェンダー研究 19号』(2016年3月刊行)の概要

特集:グローバル金融危機以降のアジア経済社会とジェンダー

第19号では、巻頭特集として「グローバル金融危機以降のアジア経済社会とジェンダー:金融領域・生産領域・再生産領域の接合」を掲載した。これは科学研究費基盤研究 A(23241084、代表足立眞理子IGS 教授)の成果であり、「フェミニスト経済学の主要な射程に含まれていなかった<金融領域>のグローバル化とジェンダーの諸関係を、グローバル金融危機以降のアジア経済社会において、方法的かつ実証的に分析」した4本の論文(足立、金井・申、斎藤、長田)で構成されている。足立による翻訳はG.ディムスキ他著「Race, Gender, Power, and the US Subprime Mortgage and Foreclosure Crisis: A Meso Analysis」の邦訳を掲載。投稿論文は厳正な審査を経た4本を掲載した。バングラデシュを対象とした「BOP ビジネスと農村女性のエンパワーメント」(藤掛)、「学歴ミスマッチの持続性に関する男女別実証分析の日蘭比較」(市川)、「理数系教科選好度の推移のジェンダー差に関する研究」(中西)、「日本における科学技術分野の女性研究者支援政策」(横山ほか)と、地域研究、社会学、教育学、科学史など多彩な領域を扱っている。研究ノートは1本、「『性同一性障害』概念の普及に伴うトランスジェンダー解釈の変化」(吉澤)を掲載、今後の研究発展が期待される。書評は社会学、政治学、歴史学、地域研究など幅広い研究領域から投稿2本(鈴木、尹[ユン])依頼4本(小ヶ谷、土野、李、鳥山)を掲載した。今年はジェンダー研究所として初めの年にあたり、研究所の初年度号として、十分読み応えのある仕上がりとなっている。

『ジェンダー研究』第 19 号(2016 年 3 月刊行)目次

☆≫

■ 特集「グローバル金融危機以降のアジア経済社会とジェンダー: 金融領域・生産領域・再生産領域の接合 |

予論	足以具埋于	1
金融排除/包摂とジェンダー:金融化された経済へのフェミニスト政治経済分析	足立眞理子	11
生命保険業における金融媒介者の検討:再生産領域の金融化論にむけて	金井郁・申琪榮	27
高齢社会における生産・再生産領域のインターフェイス:介護保険制度下の福祉用 具貸与サービスのジェンダー分析	斎藤悦子	47
グローバル金融危機以降の日系縫製企業の国際移転とジェンダー:第二次移転 先・バングラデシュの現状と課題	長田華子	65
■翻訳		
人種、ジェンダー、権力と、米国のサブプライム抵当担保ローンと差し押さえ危機:メ ゾ分析	ギャリー・ディムスキ、 ジーザス・ヘルナンデス、 リサ・モハンティ著 足立眞理子/訳	93
■投稿論文		
BOP ビジネスと農村女性のエンパワーメント:バングラデシュ農村女性を対象とした「生活改善と美」のプロジェクトに関する一考察	藤掛洋子	119
学歴ミスマッチの持続性に関する男女別実証分析の日蘭比較	市川恭子	137

理数系教科選好度の推移のジェンダー差に関する研究:学齢児童生徒を対象としたパネルデータを用いた分析	中西啓喜	157
日本における科学技術分野の女性研究者支援政策:2006年以降の動向を中心に	横山美和·大坪久子 小川眞里子·河野銀子· 財部香枝	175
■研究ノート		
「性同一性障害」概念の普及に伴うトランスジェンダー解釈の変化	吉澤京助	193
■書評		
小川真理子著『ドメスティック・バイオレンスと民間シェルター:被害当事者支援の 構築と展開』	鈴木亜矢子	203
Emma Dalton 著 Women and Politics in Contemporary Japan	尹智炤	207
Kyoko Shinozaki 著 Migrant Citizenship From Below: Family, Domestic Work, and Social Activism in Irregular Migration	小ヶ谷千穂	213
歴史学研究会・日本史研究会編『「慰安婦」問題を/から考える:軍事性暴力と日常世界』	土野 瑞穂	217
スーザン・マン著、小浜正子、リンダ・グローブ監訳、秋山洋子、板橋暁子、大橋史恵訳『性から読む中国史:男女隔離・纏足・同性愛』	李小妹	221
嶺崎寛子著『イスラーム復興とジェンダー:現代エジプト社会を生きる女性たち』	鳥山純子	225
■ジェンダー研究所彙報(平成 27 年度)		229
■編集方針・投稿規程		248
■編集後記		250

《第19号編集委員会》

編集委員長 足立眞理子 (ジェンダー研究所教授)

編集委員 猪崎弥生 (ジェンダー研究所所長 (2015.4.1~2015.9.30))

石井クンツ昌子 (ジェンダー研究所所長 (2015.10.1~)

申琪榮 (ジェンダー研究所准教授)

天野知香(基幹研究院文化科学系教授)

荒木美奈子(基幹研究院人間科学系 准教授)

水野勲(基幹研究院人間科学系教授)

森義仁(基幹研究院自然科学系教授)

編集事務局 臺丸谷美幸 (ジェンダー研究所特任リサーチフェロー)

2) プロジェクト報告書 IGS Project Series による成果刊行

2015年度より、IGSセミナー、国際シンポジウム、特別招聘教授プロジェクト、研究・教育プロジェクト等、各事業の成果発信シリーズとして IGS Project Series の刊行を開始した。本シリーズは、冊子の形態での刊行のほか、ウェブサイト上でオンライン公開する。今年度は、IGSセミナー成果1冊、国際シンポジウム成果1冊、特別招聘教授プロジェクト成果1冊の計3冊の刊行であった。セミナー、シンポジウム開催数に比して少なめの刊行数となってしまったことから、次年度は、セミナー、シンポジウム開催後の早い時期に原稿作成、編集を進め、各事業成果をできるだけ早く公開するとともに、刊行数の増加に務めたい。

IGS Project Series 1 IGS Seminar "Choice and Consent in Prenatal Testing"



【目次】

- 1. Seminar Details
- 2. Forward
- 3. Catherine Mills (Monash University)
 "Choice and Consent in Prenatal Testing in Australia"
- 4. Azumi Tsuge (Meiji Gakuin University)
 - "What do women want to choose in Prenatal Testing in Japan"
- 5. Commentator: Marcelo de Alcantra (Ochanomizu University) "Prenatal Testing from Legal Perspecitive"
- 6. Questions and Answers
- 7. Seminar Report on IGS website
- 8. Power Point Slides Catherine Mills
 - Azumi Tsuge
- 9. Poster
- 10. Photo Gallery

IGS Project Series 2 国際シンポジウム「はたして日本研究にとってジェンダー概念は有効なのか?」



【目次】

実施概要報告

シンポジウムの記録

趣旨説明:棚橋 訓

研究報告

マリー・ピコーネ「胎児の死と中絶をめぐるジェンダー化の諸相」

松岡悦子「ジェンダーなのか文化なのか」

加藤恵津子「〈男〉〈女〉〈その他:____〉」

ディスカッサントによるコメント

コメント1: 新ヶ江章友

コメント2: 熊田陽子

質疑応答

「IGS 通信」掲載開催報告:鳥山純子

聴衆から寄せられた感想抜粋